

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズベースシーズ				公表日	2025年 3月 25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		定員に対し余裕をもったスペースの支援室に加え、遊具や砂場を備えた広々とした園庭もあります。	放課後デイのお子さんが夏休み等の長期休暇期間は重なる時間帯があるため、部屋や内容を工夫しながら対応しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員に加え加配職員を配置することで、お子さんの特性に合わせて職員で連携しながら、複数体制で支援に取り組んでいます。	お子さんの特性、活動内容等を見てスタッフ配置を考え時間帯ごとの細かいスケジュールを作成しながら業務運営に取り組んでいます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		その日のスケジュールをイラストや文字で分かりやすく提示、タイムタイマーで残り時間を示す、などお子さんが「見て分かる」環境を考え、視覚支援の構造化を図っています。活動の手順は活動前の説明で手順書を用いて説明し、活動中も手順書を確認する等おこない、情報を視覚的に見て理解できるようにしています。ドアも引き戸が多く、床の段差もほとんどなくバリアフリーの設定になっています。階段はお子さんのほりやすい高さになっています。	より分かりやすい環境、お子さん、スタッフにも分かりやすい構造化を目指していきたいと思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓を心掛け、活動後、活動前に空気の入替えや清掃、消毒等をおこなっています。お子さんの特性に合わせてものを移動したり、布をかけることで、視覚情報を減らすなど対応しています。	定期的に確認をおこない、より過ごしやすい環境を整えていけるようにしたいと思います。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別に部屋や環境を用意したり、部屋をカーテン等で区切るようにしています。	放課後デイのお子さんが夏休み等の長期休暇中は放課後デイのお子さんとの重なる時間帯があるため、部屋や内容を工夫しながら対応しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティング等で活動の確認と振り返りをおこなっています。また定期的に職員から意見を吸い上げ支援の質の向上や、業務改善に取り組んでいます。	コロナ禍もあり他施設での取り組みを知る機会が少なかったため、今後、他事業所等との連携もおこない、他事業所のベストプラクティスを取り入れられるようにしていきたいと思います。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価の結果を基に業務改善に努めています。また、保護者のお迎え時等に保護者の意向等を聴き取り、業務改善につなげています。	保護者アンケートや面談などを通じて、さらに保護者の方々の意向を把握する機会を設けていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングや打ち合わせ等を通じて、定期的に職員から意見を吸い上げ支援の質の向上や、業務改善に取り組んでいます。	今以上に改善に関する打ち合わせの頻度をあげ、PDCAサイクルのスピードアップを図っていききたいと思います。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	法人内で毎月実施している企画会議において、他事業所の管理者と意見交換を行ったり、助言をもらったりするなかで、業務改善に取り入れている。大学教授からアドバイスを頂いたり研修を実施していただいています。	第三者評価の自己評価に取り組むなど、外部評価受診の準備を進めていきたいと思っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		リモート研修や会場での研修など参加可能な研修等に積極的に参加するようにしている。また、発達障がいアドバイザーとして関わっていただいている大学の先生による勉強会も定期的の実施している。今年度から認知心理士の大学の先生や理学療法士の方にも定期的にアドバイスをいただいています。	今後はパート職員にも希望を聞きながら、外部での研修を受けることができる環境を提供することで、事業所全体の質の向上につなげることができるよう情報共有をおこなっていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		視覚的に理解しやすいように、イラストや色分けを駆使して、ホームページにて公表しています。	内容は今後も修正しながら個々のお子さんに対応できるものにしていきたいと思っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日々の支援や保護者の方、相談支援員等の情報なども含めてニーズや課題を分析し計画作成をおこなっています。	個々のお子さんのニーズを検討したうえで今後もお子さんや保護者に寄り添った支援計画を作成していきたいと思っています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成において職員と「個別支援計画会議」を実施し共通理解をはかり、支援の際にも活かすことができるように心掛けています。	日々の支援の中でも、定期的に計画を振り返ることで、共通理解を深めさらにお子さんへの支援の改善をおこなっていききたいと思います。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		お子さん1人ひとりの日々の記録用紙内に個別支援計画の内容を記載し、確認しながら対応できるようにしています。	これからも職員間で共通理解して支援ができるよう伝え方、話し合いの方法を工夫していきたいと思っています。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	保護者の方や相談員の方から頂いた情報と日々の活動などから状況を把握し、標準化されたツールを用いたアセスメントをするように努めています。	本人の状況や保護者、相談員、他事業所等の情報などからアセスメントしています。アセスメントツールについても定期的に項目の見直しなどをしていきたいと考えています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	今年度より5領域を全てのお子さんの支援内容に盛り込んで計画を作成しています。その他の家族支援、移行支援等はご家族の意向や年齢などに合わせて設定しています。	今後も研修等を重ねながらよりよい個別支援計画を作成していけるようにしたいと思います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	職員全員で話し合いをおこない、活動プログラムを決定しています。	職員間の連携をしっかりとおこない、よりよいプログラムの立案を行っていききたいと思います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	体幹トレーニング、感覚遊び、ビジョントレーニングなど5領域に沿った活動を設定し、スモールステップで段階的に活動をおこなっていきけるように考えています。理学療法士の先生にも定期的に来ていただき、体を動かす活動を実施してもらっています。	今後もスタッフ間で話し合いをおこないいろんな活動にお子さんがチャレンジしていけるようにしていきたいと思っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	発達、特性、その日の状態等を加味し、それぞれの課題に取り組めるよう工夫を重ね活動の設定をおこなっています。	現在、個別での対応となっており集団での活動があまりできていない状況ですが、個別の活動になっても集団になるとどうなるか想定しながら活動を実施し、他児との関わりも意識した声かけをおこなっています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援前に当日の流れや支援内容、役割分担について確認を行っています。	今後も支援内容や役割分担の確認、情報の共有を徹底してより良い支援につなげていけるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後に気づいた点等を共有しています。	全員に共有はできていない部分があるため、ノート等を活用し、全体に共有できるようにしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎日、その日利用のお子さんの記録をきちんととっています。記録用紙内に個別支援計画の内容を記載し、計画に沿った支援が実施できているか確認できるようにし、支援の検証・改善等につなげています。	支援の検証・改善の方法を工夫していきたいと思っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを実施し、児童の状況や保護者様のご意向を踏まえて計画の見直しや作成をおこなっています。	半年に1回ではなくこまめに職員間で見直しを行っていく工夫を考えていきたいと思っています。
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	会議がある場合は普段からお子さんたちの様子を把握している児童発達支援管理責任者が参画します。また事前に職員からお子さんの様子を聞いたうえで参画しています。	今まで以上に密に連携し、情報共有をおこなっていききたいと思います。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保育園、幼稚園、事業所等と連携できるように取り組んでいっているところです。	保育園、幼稚園、関係事業所等との連携をこまめにおこなっていくように心がけていきたいと思っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	お子さんが通っている保育園や幼稚園等に様子を見にいかせていただき、キッズベースでのお子さんの様子等を伝え、また、保育園や幼稚園でのお子さんの様子を教えていただいています。	今後、定期的におこないながら情報共有と相互理解を図っていききたいと思います。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	就学前シートにキッズベースでのお子さんの様子等を記入し情報共有を図っています。	就学前シートだけでなく、小学校や特別支援学校と情報共有の機会を場を設けていけるようにします。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)			お子さんが通っている保育園や幼稚園等に様子を見にいかせていただき、キッズベースで	現在、阿南市に児童発達支援センターがないことから、連携はうまく図れていませんが、

連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	お子さんの様子等を伝え、また、保育園や幼稚園でのお子さんの様子を教えていただいています。	今後連携を深めていきたいと思います。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	お子さんが通っている保育園や幼稚園等に様子を見にいかせていただき、キッズベースでのお子さんの様子等を伝え、また、保育園や幼稚園でのお子さんの様子を教えていただいています。	利用されているお子さんは保育園や幼稚園等に通いながら利用しているお子さんではありませんが、キッズベースとして保育園、幼稚園等との交流は少ないです。地域のイベントに参加する等おこない、地域のお子さんたちとの活動の機会を設けていきたいと思います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○	送迎時等に様子を尋ねたり、今日の活動でのお子さんの様子を伝える等おこない、発達状況や課題についての共通理解を図っています。保育園等への送迎になり保護者の方に会えなかった場合はLINEにてその日のお子さんの様子をお伝えしています。	お子さんの発達状況や課題について気軽にご相談していただけるよう、保護者の方との関わりをもっと深めていきたいと思います。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者に療育内容をお伝えする際に、家庭でも取り組んでいただける内容があればご協力いただくようお伝えしています。また関わり方についてアドバイスをしたり、適宜相談を受けさせていただくようにしています。	保護者をお招きし、研修の機会を設けたり、発達障がい支援センター等で行われているペアレントトレーニング等も積極的に保護者の方に情報提供していきたいと思います。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	事前の見学、また契約時に資料や実際のツール、療育の状況をご覧いただきながら説明をおこなっています。また不明な点は職員が随時説明するようにしています。	より丁寧な説明を心掛けていけるよう工夫をおこなってきたいと思います。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	契約の際の面談などで意向についてお話を聞き、サービス等利用計画を基に作成しています。お子様の日々の様子や送迎時等での保護者とのやりとりで意向を確認しながらすすめています。	今後もより丁寧に聴き取りをおこないながら、お子さん、保護者の意向を踏まえたよりよい計画を作成していけるようにします。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。		○	面談を行い、書面に計画の説明をおこなって保護者の同意を得ています。	今後も丁寧に説明をおこなっていくよう心掛けていきたいと思います。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	子育ての悩み等の相談に対し、送迎時などに適宜共感し助言をおこなったり、定期的な面談や要望のあった際に適宜面談をおこなっています。またその際にキッズベースでおこなっている支援を口頭でお伝えしたり実際に使っているツール等も見ていただいています。	発達についての知識をより深めていき、よりよい助言をおこなっていただけるようにしていきたいと思います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	今後、保護者会を5月に開催する予定で準備を進めています。	定期的に実施できるようにしました、きょうだい同士で交流する機会も設けていけるようにしていきたいと思います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	契約時に苦情に関する相談窓口を案内し、適切な対応ができるように努めています。重要事項説明書に第三者窓口について記載しています。	今後も迅速な対応に努めていきたいと思います。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	毎月発行しているお便りや、ホームページのブログ、Instagram、Facebook等で行事予定や活動の様子を発信しています。また、一斉配信メール、公式LINE等連絡体制を複数もうけています。	今後もよりよい情報提供ができるよう努めていきたいと思います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	利用契約時に個人情報の取り扱いについて説明し「個人情報取り扱い同意書」にサインをいただいています。お便り等で写真を掲載する際は職員複数名で確認をおこなっています。	今後も丁寧に説明に努めていきたいと思います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	事務連絡や案内等はできるだけ口頭だけではなく書面やLINEを用いて周知、理解しやすいようにしています。	今後も丁寧に説明に努めていきたいと思います。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	法人の防災教室などで地域住民や小学校との交流などを行っています。また地域の行事の際に要望をいただき、定期的に駐車場を提供させていただいております。	利用している子どもたちと地域住民などとの交流の機会を考えていきたいと思います。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	各種マニュアルを策定し、職員間で周知しています。警報発令時や感染症対応についてのお知らせは契約時に配布し、説明させていただいています。	保護者への周知の確認を再度おこない、再配布をおこなっていきます。

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	業務継続計画を策定しています。地震や火事、水害を想定した訓練の他、送迎時に地震が発生した場合の避難先等も職員間で話し合いをおこなっています。	訓練の仕方も様々な場面を想定しながら実施していくようにし、保護者にも周知をおこなっていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時に必ず確認させてもらっています。服薬等で途中で変更があった場合はお知らせしていただいています。	緊急時に適切に対応できるように、定期的にお子さんの既往歴や服薬についての情報共有を行うようにしていきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事の提供はしていませんが、契約時に確認をおこなっています。	指示書がある場合は職員間での周知を図ります。よりよい周知方法を検討していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練などを統括管理しています。	安全計画を適切に活用するために職員間での話し合いを定期的におこなっていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約時に警報発令時や地震発生時等の非常時の対応についてのご説明と書類を配布しています。	変更点等が出たら書面等でお知らせし、安心して過ごしていただけるようにします。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット案件が出た場合は日々のミーティング等で話し合い、職員が周知できるようにしています。	ヒヤリハット用紙をきちんと準備し、記録をとっていく習慣をつけたいと思います。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	アドバイザーとして関わっていただいている大学教授に研修をしていただいたり、外部研修等にも参加し、適切な対応をこころがけています。	今後も研修や事業所内での話し合い等を重ね、よりよい対応をおこなっていけるようにします。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	現段階で身体拘束はおこなっていません。指針のほうで明記しています。	やむを得ず身体拘束を行う場合が考えられる際は計画書に記載し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得るようにします。